

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【川通中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度への課題として、漢字、語彙、文法、計算等、基礎基本のさらなる定着と、学習習慣の確立が考えられる。また、学力の二極化への対応と、個々の生徒の習熟度に応じたきめ細かな支援、学習環境を整える必要がある。そのため、「ドリルパーク」「スタディサプリ」等ICT教材をより効果的に活用し、反復・習熟を継続する機会を増やしていく。また、指導と評価の一体化を意識し、小テストや振り返りシートの結果分析し、即時的なフィードバックや授業改善に繋げていき、意欲的に学習に向かう姿勢を育てていきたい。
思考・判断・表現	次年度への課題として、記述式問題における無回答率の改善や根拠を明確にし、資料やデータから必要な情報を読み取り、要約・解釈する読解力の向上が必要だと考える。また、単純に「覚える」から「考える」への意識を変えていく発問の工夫が必要になる。そのため、ICT教材を活用した協働学習を今後も推進し、「Teams」や「オクリンクプラス」等で意見を可視化し共有し、他者との比較や協議を通して考えを深める活動を増やしていく。また、表やグラフの特徴や傾向を捉え、言葉や数を用いて表現する活動を、教科等横断的な視点で取り組んでいきたい。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 漢字の書き取りや2ケタの計算など基礎的・基本的な知識・技能について定着している生徒と課題のある生徒との間に個人差が大きい。 <指導上の課題> 基礎的・基本的な内容を定着させるために個別に必要な支援が必要になる。	⇒ 「前時の内容の確認」「基礎基本の確認」や「授業の振り返り」等を教員が意識し、生徒に働きかける時間をとる。また、「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復と習熟に取り組む。【学年・教科の実態に応じて5分程度実施】 ・基礎学力の向上を目指し、川通中チャレンジカップ(KcC)を5教科で実施する。【毎学期1回以上実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 表やグラフ等の特徴を的確に捉え、それを文章で表現する力に課題がみられる。 <指導上の課題> 表やグラフ等の特徴や傾向を捉え、言葉や数を用いて表現する活動を、教科横断的な視点で取り組むことが必要。また、他者の意見を参照し、表現の方法を学ぶ時間も必要になる。	⇒ 教科や「STEAMS TIME」における生徒の探究的な活動を通して、特徴を捉え、表現する場面を設定し、実施する。【毎学期複数回実施】 ・「Teams」や「ミライシード」などを活用して思考から表現までの過程を可視化し意見の共有や協働作業を行う。【R7年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が70%以上】

全国学力・学習状況調査 <小6・中3> (4月～5月)

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	A	各教科において、授業の導入時に、前時の振り返りを意識した発問や内容の復習を実施することができた。それにより、学習時期に近いほど市学力状況調査の正答率が高かった。また、長期休業等の際には「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復と習熟に取り組むことができた。川通中チャレンジカップ(KcC)においては、全学年を通して5教科で実施することができた。さらに、TT(チーム・ティーチング)や、SA(学習支援員)の配置により、知識の定着に不安がある生徒への支援ができた。
思考・判断・表現	A	「Teams」や「ミライシード」を活用し、「自力・協働・練り上げ」のプロセスを重視したさいたま市「アクティブ・ラーニング」型授業の実践や生徒同士の「教え合い」の時間を意図的に多く設定することができた。また、学校課題研究でもある「キャリア教育」を軸としながら、教科等横断的な探究活動(STEAMS TIME)等を通じて、身に付けた知識を活用して課題を解決する力を段階的に育成する試みも進めることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語と数学においては、選択問題に関しては、無回答率がほぼ0%であることから、どの生徒も意欲的に取り組んでいることがわかる。国語においては「文の意味に合わせて漢字に直す問題」に課題がみられるが、「事象や行為を表す語彙」については理解度が高かった。また、数学においては、「図形」の領域に関しては埼玉県平均正答率を上回ることができたが、残る3つの領域では埼玉県平均正答率を下回る結果になった。まずは、基礎的・基本的事項の習得をより一層進めることが求められている。また、どちらの教科においても、習得にあたって「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等を活用し、反復練習に取り組む必要があると考える。
思考・判断・表現	国語では、短答式・記述式ともに、「読むこと」の問題の正答率が高いことがわかった。このことから、文章を正しく読み、理解する力があることがわかる。しかし、「話すこと・聞くこと」「書くこと」については、ほとんどの問題で平均正答率を下回る結果になった。問題形式に関わらず、自分の考えを自分の言葉で表現することに関し、課題がみられることから、既習事項を用いて新しい課題に取り組んだり、自分の言葉で整理分析・まとめ表現する力を高めるとともに、表現の方法を定着させていく必要があることがわかる。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	漢字・言葉・文法などの基礎知識、基本的な計算、関数の基礎、データの活用などは、おおむね満足できる状態や市平均を上回る結果がみられた。また、理科においては多くの分野で市平均を上回ったことから、理解度や習熟度が高いことが分かった。しかし、学習習慣の未定着もあり、基礎基本の定着に課題が残る生徒が一定数存在し、学力の二極化もみられる。今後はICTを上手に活用して「学習の個別最適化」の視点を取り入れ、個々の習熟度に応じた反復練習や支援を強化していきたい。
思考・判断・表現	どの学年においても「書くこと」や歴史の読み取りなどは、おおむね満足できる結果がみられた。また、2学年においては、昨年度と比べて、どの教科も正答率が高かった。しかし、複数の情報(文章、表、グラフなど)を読み取り、根拠を明確にして自分の言葉でまとめたり、再定義して相手に伝えたりする力が不足していた。今後は、教科等横断的な視点で、複数の情報から必要な情報を見つけ出し、協議して解決策を導き出す活動を推進していきたい。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	基礎学力の向上を目指し、川通中チャレンジカップ(KcC)を5教科で実施することができた。2・3学期も継続して実施していく。 ・授業の開始、終了の時間「前時の内容の確認」「基礎基本の確認」や「授業の振り返り」等を教員が意識し、意図的に設定するなど、授業の流れを作ることができた。 ・「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復と習熟に取り組む時間を適切に設定しようとした。	変更なし
思考・判断・表現	B	「Teams」や「ミライシード」などのICTソフトを用いて、自らの思考をまとめ、表現する過程を可視化する場面を意図的に設定することができた。 ・「カリキュラムマネジメントデザインマップ」を活用し、教科等横断的な流れを確認し、授業の実施することができた。各学年における「STEAMS TIME」は2学期以降実施していく予定である。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)